

湖上から自神の秋満喫

西目屋 水陸両用バスを運行



水しぶきを上げて美山湖に入る水陸両用バス

2016年度完成予定の津軽ダム湖(津軽自神湖)を活用した水源地域活性化の方策を採る社会実験として、西目屋村の津軽ダム工事事務所(谷田広樹所長)は25、26の2日間の日程で、目屋ダム湖「美山湖」での水陸両用バス乗車体験を行っている。

25日は津軽ダムの上流・下流域地域として、同村の西目屋小学校と弘前市の東目屋小学校の児童を招待。日本水陸両用車協会(本部東京都)が都内で運行している4人乗り水陸両用バスに試乗し

た。

午前8時西目屋小の全校児童53人が参加。同小から水陸両用バスで美山湖に移動し、そのまま水しぶきを上げて湖に進入すると児童は歓声を上げて大はしゃぎ。車両後部のスクリーンで約10分間回遊し、赤や黄に色づいた山々を湖上から満喫した。

同事務所は今回の体験に関するアンケートを実施し、地域活性化に役立てる。

(成田真矢)